

おのの

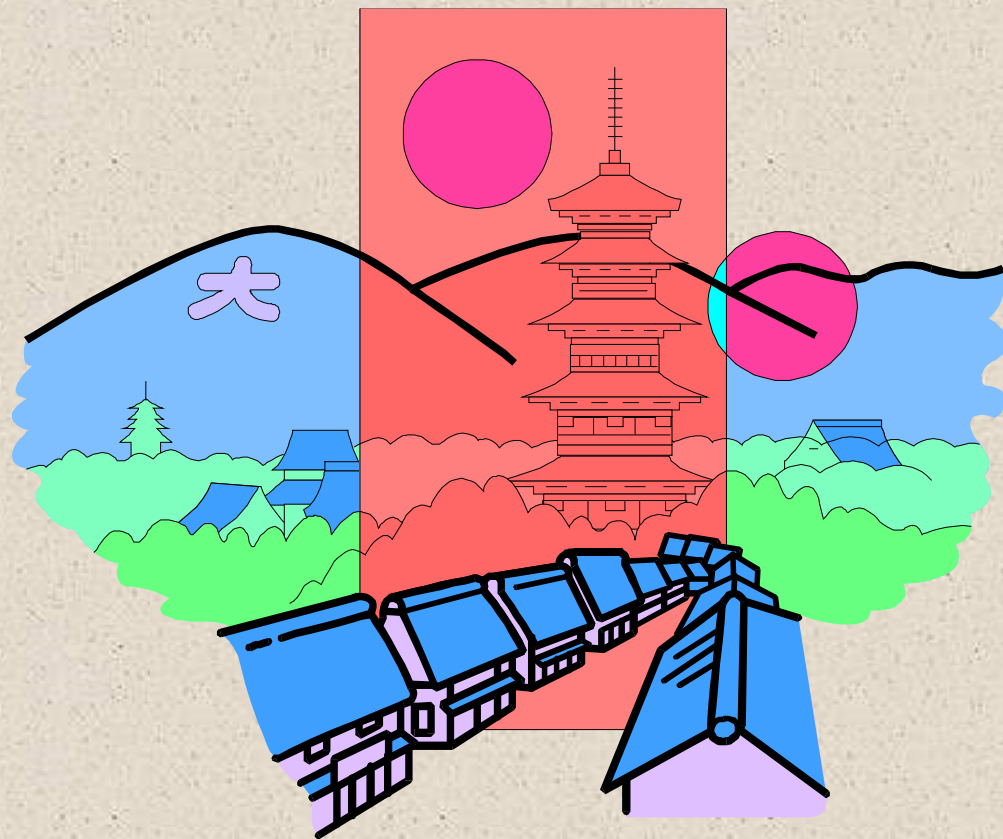
こまち

でんせつ

# 【小野小町の伝説】



いま          せんねんまえ          とき          へいあんじだい  
今から千年前、時は平安時代。



おののたかむら

小野篁は頭の良い学者でした。

けんりよく

ふじわらつねつぐ

権力を持った政治家である藤原常嗣と  
たいへん仲が悪かったです。



小野篁は、中国へ勉強のために常嗣と

ひぜんまつうら

肥前松浦(長崎県)から船で出発する予定で  
した。



ところが小野篁は常嗣の悪だくみで、

おき  
隠岐へ流されてしまいました。



りょうしん

息子の良真も山東の小野へ流され、一人の娘をもうけました。



この娘小町は成長するにつれて美しくなり、若者たちのあこがれの的となりました。

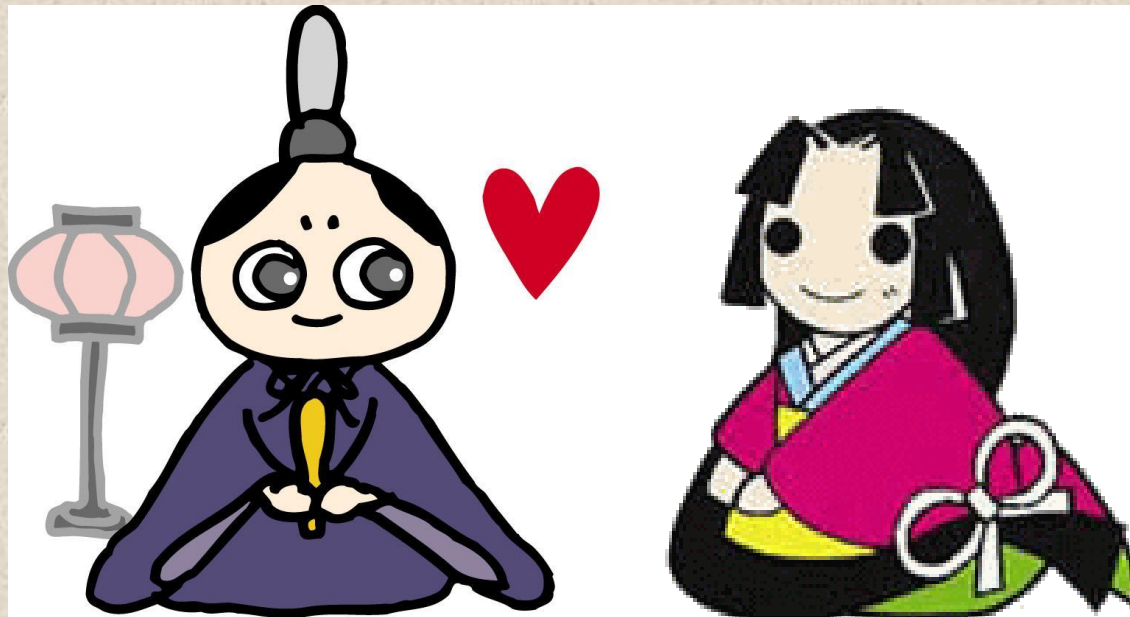


ふかくさのしょうしょう

深草少将という若者が熱心に口説くので、  
小町は「一夜も欠かさず百夜通ってくださるな

みごころ したが

らば、御心に従いましょう」と、心にもない約束  
をしました。

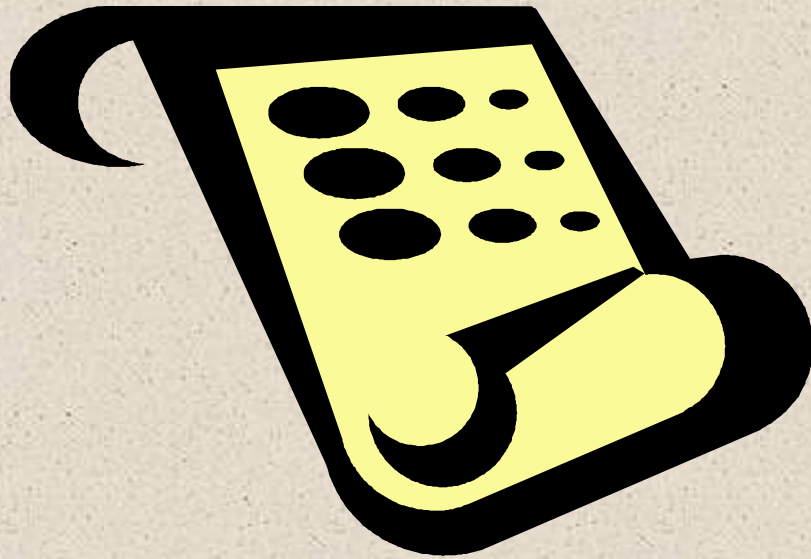




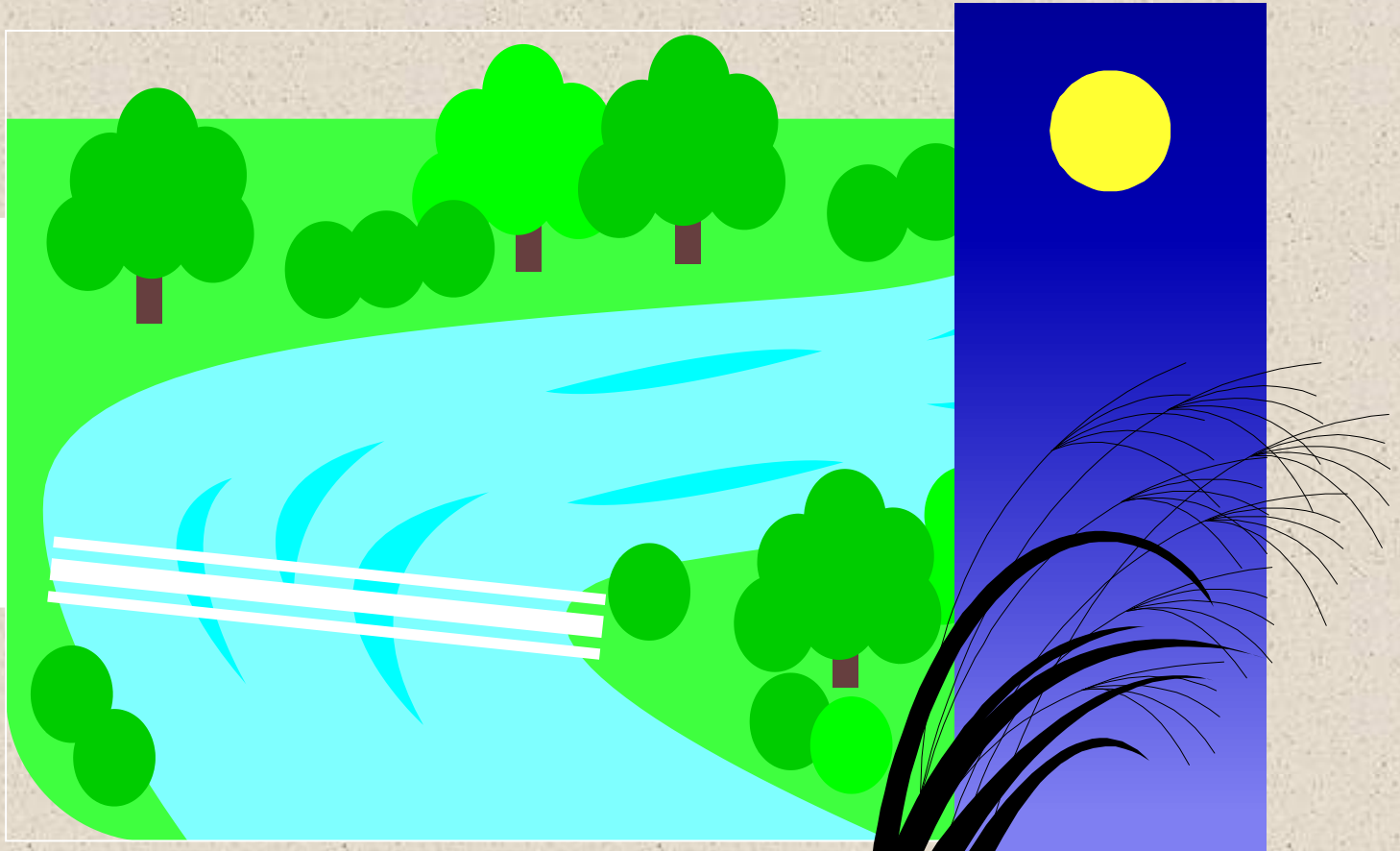
少将は雨の夜も風の夜も、小町と逢うことは  
できないのに通いつめました。



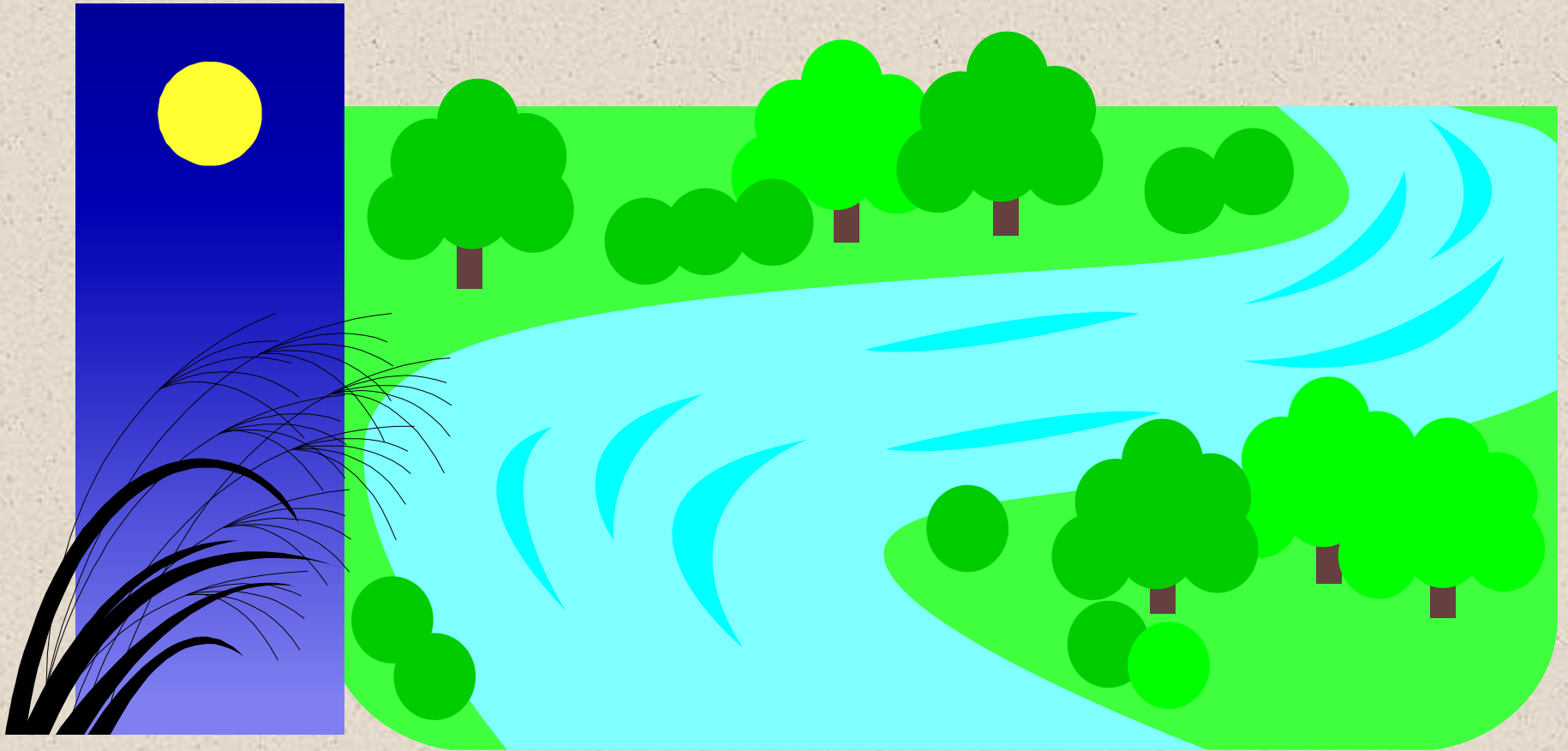
いよいよ九十九日目、良真と小町のもとに  
都へ帰って良いという知らせが届きました。



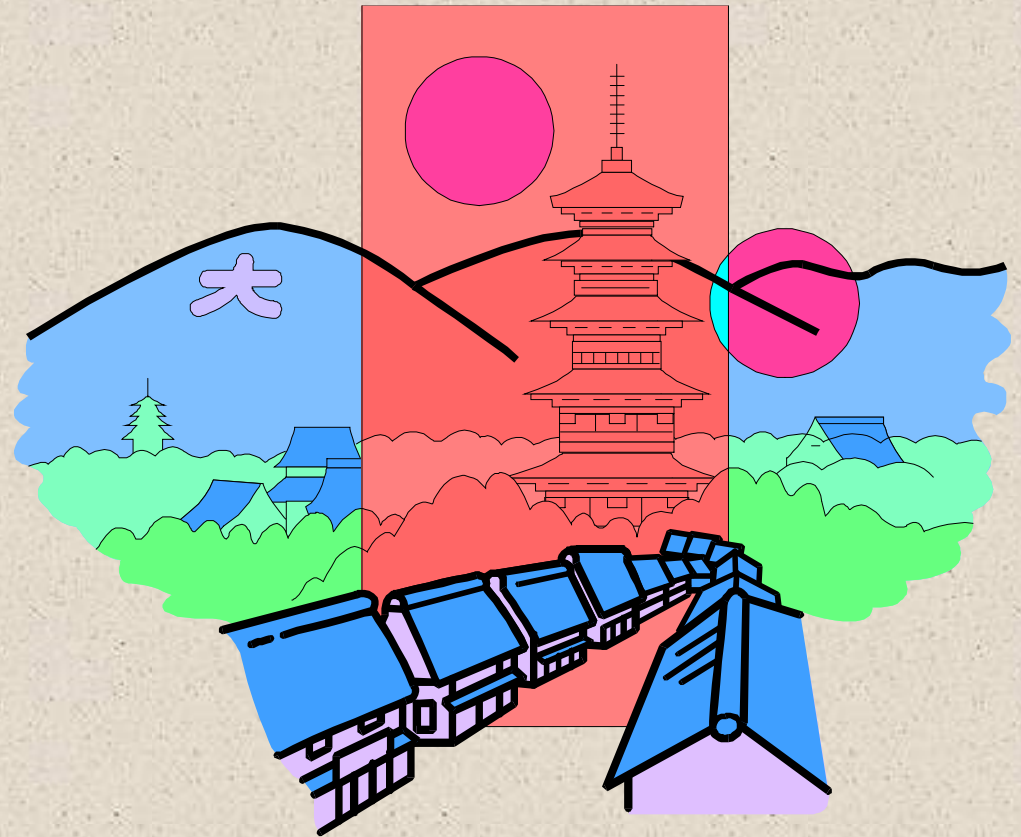
夜になると、小町は少将が通う谷間を流れる川に、橋の代わりに白い布を張り、橋と見えるようにしました。



気づかなかった少将は白い布を渡ろう  
として、川に落ちて死んでしまいました。



その後、小町は都に帰っても結婚もできず、病に苦しみ、どこへ流れていったかも分からなくなりました。



うぶゆ

小町が産湯を使ったのが小野泉水と伝えられ、小野小町とその父・良真りょうしんの木像が小町社（小野泉水公園内）にまつられています。



その横には良真が都へ早く帰れるようにとの  
願いから建て、毎日参っていたといわれて

しちこくじんじゃ

いる七国神社があります。



# 注意事項

- 本編で使用されているイラストはインターネットで配布されているフリー素材のものであります。そのため、営利目的等で利用することは作者の許可なくできません。